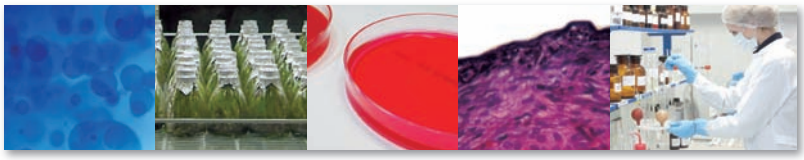
生物科学学会連合

The Union of Japanese Societies for Biological Science



2016 – 2017

加盟団体一覧（五十音順）

個体群生態学会
日本味と匂学会
日本遺伝学会
日本宇宙生物科学会
日本解剖学会
日本細胞生物学会
日本時間生物学会
日本実験動物学会
日本植物学会
日本植物形態学会
日本植物生理学会
日本進化学会
日本神経化学会
日本神経科学学会
日本生化学会
日本生態学会
日本生物教育学会
日本生物物理学会
日本生理学会
日本蛋白質科学会
日本動物学会
日本農芸化学会
日本発生生物学会
日本比較生理生化学会
日本比較内分泌学会
日本微生物生態学会
日本分子生物学会
日本分類学会連合
日本免疫学会
日本薬理学会

（2016年6月現在）

ご挨拶

生物科学学会連合代表
中野　明彦

生物科学学会連合（生科連）は、生物科学、生命科学関係の学会がゆるやかな連携で協力体制を築き、関連分野の諸問題について討議し解決を図るとともに、将来を見据えた提言を行って、生物科学の発展に大きく寄与することを目的とした組織です。現在、30団体が加盟しています。

21世紀は生物科学の時代と言われて久しくなりました。幅広い分野がゆえに数多くの学会が存在し、それぞれがさまざまな活動を行っています。一方で、代表的な学会をもたないために、個別の学会の声が国の施策や社会になかなか届かないもどかしさもありました。生科連は、単独の学会では解決困難な課題に対し、情報を共有して一緒に知恵を絞り、解決をめざします。若手キャリアパス、ジャーナル問題、学会大会の合同の動きなど、山積する重要な課題に、積極的に取り組んでいきたいと考えています。

生科連が生物科学分野の一層の発展に寄与するために、参加学会のみならず関係各位のご協力をよろしくお願い申し上げます。

生物科学学会連合 入会（加盟）のご案内

生物科学学会連合は生物科学に関連する学術団体の連合体で、その構成員（会員）は個人ではなく学協会および連合体です。
入会方法の詳細は、生物科学学会連合事務局へお問い合わせください。

生物科学学会連合

中西印刷株式会社 東京営業部内
〒113-0033 東京都文京区本郷２-26-11
浜田ビル５階
Tel：03-3816-0738　Fax：03-3816-0766
E-mail：seikaren@nacos.com

http://www.nacos.com/seikaren/

個体群生態学会

会長：椿　宜高
（2016年７月１日現在）

●1961年設立
●会員数：300名
●〒603-8148
京都市北区小山西花池町1-8
㈱土倉事務所内 個体群生態学会事務局
●Tel：075-451-4844
●Fax：075-441-0436
●E-mail：bwa36248@nifty.ne.jp
●URL：http://www.population-ecology.jp/

生物の個体群に関係した生態学や進化学の発展をはかるため、大会を年１回開催。日本の生態学分野の英文誌としてもっとも歴史が長く、国際的評価も高いPopulation Ecologyを年４回発行。若手研究者の顕彰などにも取り組んでいる。

日本味と匂学会

会長：柏柳　誠
（2016年７月１日現在）

●1991年設立
●会員数：700名
●〒078-8510
旭川市緑が丘東２条１丁目
旭川医科大学生理学講座神経機能分野
●Tel：0166-68-2332
●Fax：0166-68-2339
●E-mail：jasts@asahikawa-med.ac.jp
●URL：http://jasts.com

本学会は、前身である「日本味と匂のシンポジウム」が1967年に発足して以来、味と匂いに関する科学の広範な研究の進展を図るため、学術大会の年１回開催、日本味と匂学会誌の年３回刊行、メーリングリストの運用等により会員の交流を促進し、顕彰事業などを通して若手研究者の育成にも積極的に取り組んでいる。また、アジア地区連携シンポジウムを開催するなど、国際化の促進をはかっている。

日本遺伝学会

会長：遠藤　隆
（2016年７月１日現在）

●1920年設立
●会員数：868名（2016年１月１日現在）
●〒411-8540
静岡県三島市谷田1,111
国立遺伝学研究所内
●Tel/Fax：055-981-6736
●E-mail：japgenet@nig.ac.jp
●URL：http://gsj3.jp/

遺伝に関する研究を奨めその知識の普及を計ることを目的に、学術集会を年１回、談話会を各地で随時開催、学術誌Genes & Genetic Systemsを年６巻発行、さらにニュースレターのGSJコミュニケーションズの年３回発行等を行っている。また、学会賞・ベストペーパー賞を設け優れた研究業績を一般に知らせるとともに、奨励賞を設け若手研究者の助成を行っている。

加盟団体の紹介

一般社団法人 日本宇宙生物科学会

理事長：髙橋　秀幸
（2016年７月１日現在）

●1987年設立
●会員数：307名（2016年６月30日現在）
●〒162-0808
東京都新宿区天神町78
●Tel：03-3235-2062
●Fax：03-3268-3023
●E-mail：jsbss-office@spacebio.sakura.ne.jp
●URL：http://www.jsbss.jp/

宇宙生物科学は、生命を宇宙の視点・関連でとらえ、また、それを宇宙環境利用によって理解しようとするユニークな学際的分野です。それによって新たな生物学的知見を得るだけでなく、地球および宇宙における人類活動に貢献します。本会は、この宇宙生物科学およびこれと関連する分野の学術研究を振興するとともに、会員相互および国際的な連携を図ることを目的とし、年一回の学術集会、公開講演会を開催し、学会誌Biological Sciences in Spaceを発行しています。

一般社団法人 日本解剖学会

理事長：藤本　豊士
（2016年７月１日現在）

●1887年設立
●会員数：2,326名（2016年７月１日現在）
●〒170-0003
東京都豊島区駒込1-43-9 駒込TSビル
一般財団法人 口腔保健協会内
●Tel：03-3947-8891
●Fax：03-3947-8341
●E-mail：gakkai24@kokuhoken.or.jp
●URL：http://www.anatomy.or.jp/

本会は明治26年（1893年）に創設された長い歴史を持つ学会であり、肉眼解剖学から分子構造の解明まで、様々なレベルの構造のかたちを観察・解明することを通じて、ヒトをはじめとする生物の生理機能を理解することを目指しています。毎年３月の総会・全国学術集会のほか、支部学術集会の開催、英文学術誌Anatomical Science Internationalの刊行、解剖組織技術者の認定などを行っています。

一般社団法人 日本細胞生物学会

会長：吉森　保
（2016年７月１日現在）

●1950年設立
●会員数：1,226名（2016年６月１日現在）
●〒602-8048
京都市上京区下立売通小川東入
●Tel：075-415-3661
●Fax：075-415-3662
●E-mai：jscb@nacos.com
●URL：http://www.jscb.gr.jp/

本会は細胞生物学の進歩発展を図ることを目的として、学術集会の開催、学会誌Cell Structure and Functionの刊行、会報の発行、国際細胞生物学連合やアジア太平洋細胞生物学連合の活動への協力などを行っています。細胞生物学は、電子顕微鏡技術の発展、分子イメージング技術の発達、各種生化学的技術の開発、分子生物学と細胞工学・遺伝子工学の導入によって急速に進歩し、動物・植物を問わず、細胞の生命現象の解明は急速に進み、その成果は確実に医学・農学・薬学等へ応用されてきました。今や細胞生物学は生命科学の中心であり、本会はその進歩発展、次世代の若手研究者の育成に貢献していきたいと考えています。

日本時間生物学会

理事長：近藤　孝男
（2016年７月１日現在）

●1995年設立
●会員数：530名（2016年３月31日現在）
●〒467-8603
愛知県名古屋市瑞穂区田辺通3-1
名古屋市立大学大学院薬学研究科
神経薬理学分野内　桑和彦（事務局長）
●Tel/Fax：052-836-3524
●E-mail：chronobiology.jp@gmail.com
●URL：http://chronobiology.jp/

基礎科学から応用科学に至る時間生物学の広い領域から研究者が結集している学会である。学術集会を年１回開催するほか、機関誌「時間生物学」を年２回発刊している。また、米国生物リズム研究会や欧州生物リズム学会と協力し、国際学術集会や若手向けの教育コース「時間生物学サマースクール」を定期的に開催している。さらにアジア睡眠学会と国際学術会議を共同開催している。

公益社団法人 日本実験動物学会

理事長：浦野　徹
（2016年７月１日現在）

●1951年設立
●会員数：1,117名（2016年６月現在）
●〒113-0033
東京都文京区本郷6-26-12
東京RSビル3F
●Tel：03-3814-8276
●Fax：03-3814-3990
●E-mail：JDK06323@nifty.ne.jp
●URL：http://www.jalas.jp/

実験動物はライフサイエンス研究や医薬品開発等の分野で多用され、動物実験はそれらの研究開発に不可欠な手段として広範な分野で実施されています。日本実験動物学会は、マウスから霊長類まで多様な実験動物に関する基礎及び応用研究、動物実験に関する技術開発等に携わる研究者、技術者を主な会員とし、年1回の定期学術集会、学術シンポジウムや動物実験の適正化に関するセミナー等の開催、学会誌Experimental Animalsの刊行を行っています。

公益社団法人 日本植物学会

会長：戸部　博
（2015年７月１日現在）

●1887年設立
●会員数：約1,996名（2016年６月現在）
●〒113-0033
東京都文京区本郷2-27-2
東眞ビル２階
●Tel：03-3814-5675
●Fax：03-3814-5352
●URL：http://bsj.or.jp/

植物学に関する研究の進展と知識の普及を図り、それによって学術全般の発展に寄与することを目的に設立された学術団体です。(1)学術集会、講演会、講習会等の開催、(2)国際学術雑誌「Journal of Plant Research」、その他出版物の発行、(3)調査及び研究、(4)学会賞を制定し、植物科学の進歩に貢献した者、もしくは将来の貢献が期待される者の表彰ならびに研究の奨励、(5)国内外の関係学術団体との連絡及び協力を行っています。

日本植物形態学会

会長：河野　重行
（2016年７月１日現在）

●1988年設立
●会員数：268名（2016年６月１日現在）
●〒671-2280
姫路市書写2167
兵庫県立大学大学院生命理学研究科内
●Tel：079-267-4938
●Fax：079-267-4920
●E-mail：mineyuki@sci.u-hyogo.ac.jp
●URL：http://square.umin.ac.jp/pl-morph/top_page/top.html

日本植物形態学会は、植物の形態・構造、そしてその機能に関連した分野の研究者が、新しい技術や理論、そして研究の発展方向などを積極的に議論し、実質的な相互の交流の場を持とうという趣旨のもと1988年１月に設立された学術研究団体です。総会・大会を年１回開催しているほか、学会誌PLANT MORPHOLOGYを年１回、刊行しています。また、植物形態学分野で優れた業績を挙げた研究者／研究の顕彰も行っています。

一般社団法人 日本植物生理学会

会長：福田　裕穂
（2016年６月13日現在）

●1959年設立
●会員数：2,162名（2016年６月現在）
●〒602-8048
京都市上京区下立売小川東入
西大路町146番地
●Tel：075-415-3661
●Fax：075-415-3662
●URL：https://www.jspp.org/

本学会は、多様な植物と微生物を対象とした基礎研究と応用研究に携わる研究者による学術団体で、若手会員と外国人会員の比率が高いのが特徴です。創立55周年にあたる2014年に、一般社団法人となりました。学会誌Plant and Cell Physiologyは国際的にも高い評価を得ています（2014年Impact factor 4.931）。また、学会ウェブサイトの一般向けページ「みんなのひろば」は年間アクセスが90万件を超えており、植物科学研究のアウトリーチにも大きく貢献しています。

日本進化学会

会長：田村浩一郎
（2016年７月１日現在）

●1999年設立
●会員数：1,200名（2016年６月現在）
●〒102-0072
東京都千代田区飯田橋3-11-15
UEDAビル６階　株式会社クバプロ内
●Tel：03-3238-1689
●Fax：03-3238-1837
●E-mail：shinka@kuba.jp
●URL：http://sesj.kenkyuukai.jp

日本進化学会は、進化に関する広範な研究および教育を推進し、我が国におけるこの分野の発展に寄与することを目的に設立されました。年１回の学術集会では、研究発表、優秀発表の表彰、初心者向け教育プログラム、高校生発表会、市民向け講演会を行っています。日本進化学会賞、研究奨励賞、教育啓発賞により研究の奨励と一般への研究成果の発信を行っています。年３回の日本進化学会ニュースを発行し、会員間での情報の共有を行っています。国内外の関係団体と国際学会などの共催を通して進化学の国際化に寄与しています。

日本神経化学会

理事長：今泉　和則
（2016年７月１日現在）

●1958年設立
●会員数：1,300名
●〒160-0016
新宿区信濃町35信濃町煉瓦館
（一財）国際医学情報センター内
●Tel：03-5361-7107
●Fax：03-5361-7091
●E-mail：jsn@imic.or.jp
●URL：http://www.neurochemistry.jp/

日本神経化学会は、「神経化学」を標榜する世界の学会のなかで最も長い歴史と最大級の会員数を有する学会であり、1958年に神経生理学、神経薬理学、神経生化学、精神医学、神経内科学を中心とした基礎研究者と臨床医学者が集い結成されました。脳と神経の病気の原因や発症の仕組みについて分子実体を基盤として明らかにしていくこと、そしてそこからサイエンスの新しい地平線を切り開くことが本学会の主たる使命です。そのために、基礎と臨床の連携強化、脳・神経・グリア研究の推進、口演発表と討論の充実による若手会員の育成などを実践しております。

日本神経科学学会

会長：田中　啓治
（2016年７月１日現在）

●1974年設立
●会員数：6,163名（2016年７月１日現在）
●〒113-0033
東京都文京区本郷７丁目2-2
本郷ビル9F
●Tel：03-3813-0272
●Fax：03-3813-0296
●E-mail：office@jnss.org
●URL：http://www.jnss.org/

脳・神経系に関する基礎・臨床及び応用研究を推進し、その成果を社会に還元、ひいては人類の福祉や文化の向上に貢献すべく、神経科学研究者が結集した学術団体です。国際的な学術集会を毎年開催するとともに、英文学術誌Neuroscience Researchを発行して研究成果を世界に向けて発信しています。また、利用無料のオンライン辞典である脳科学辞典を主催し、学術集会に連動して市民公開講座を開催するなど、社会へのアウトリーチ活動にも積極的に取り組んでいます。

公益社団法人 日本生化学会

会長：水島　昇
（2016年７月１日現在）

●1925年設立
●会員数：8,119名（2016年７月１日現在）
●〒113-0033
東京都文京区本郷5-25-16
石川ビル３階
●Tel：03-3815-1913
●Fax：03-3815-1934
●URL：http://www.jbsoc.or.jp/

日本生化学会は90年以上の長い歴史を持つ組織であり、生命現象を分子レベルで解明することを目指し、生化学に関連する研究、教育、普及、行政活動を幅広く支援しています。学会全体の年大会は、会員の発表と相互交流の場となっています。各地域の会員で構成される８つの支部も、それぞれが活発な活動を行っています。アジア・オセアニア生化学分子生物学者連合FAOBMBの日本窓口も務めています。和文誌「生化学」を年６回、英文誌「Journal of Biochemistry」を年12回発行しています。

一般社団法人 日本生態学会

会長：可知　直毅
（2016年７月１日現在）

●1953年設立
●会員数：約3,770名（2016年５月30日現在）
●〒603-8148
京都市北区小山西花池町1-8
●Tel/Fax：075-384-0250
●URL：http://www.esj.ne.jp/esj/

生態学の進歩と普及を図ることを目的として、日本生態学会は、生態学およびその関連分野に関わる研究を推進するため、研究者を始め関連する職業や学生の方々を会員として、1953年に設立されました。これまで自然保護委員会を中心として数々の自然保護に関わる提言や要望書を提出してきましたし、生態系管理委員会でも自然再生に対する提言を行ってきました。最近の生物多様性や気候変動などの問題を通じて、当会と社会への関わりの幅をこれまで以上に広げています。

一般社団法人 日本生物教育学会

会長：渥美　茂明
（2016年７月１日現在）

●1955年設立
●会員数：約800名（2016年７月１日現在）
●〒113-0033
東京都文京区本郷2-26-11
浜田ビル６階
中西印刷株式会社東京営業部内
●Tel：03-3816-0738
●Fax：03-3816-0766
●E-mail：sbsej@nacos.com
●URL：http://sbsej.jp/

日本生物教育学会は、生物教育に関わる学術的研究および実践的研究の振興を目的として活動しています。会員の研究活動の交流の場として、会誌『生物教育』を刊行し、全国大会を毎年開催しています。このほか、研修会を各地で開催するとともに、生物教育サポート委員会を設置して普及・啓蒙活動を行っています。大学入試センター試験問題検討委員会は試験問題を分析検討し、改善を提言しています。国際交流委員会を通じてアジア生物学教育協議会（AABE）に協力しています。また、日本生物学オリンピック運営に参画しています。

一般社団法人 日本生物物理学会

会長：中村　春木
（2016年７月１日現在）

●1960年設立
●会員数：約3,000名
●〒602-8048
京都府京都市上京区下立売通
小川東入る
●Tel：075-415-3661
●Fax：075-415-3662
●E-mail：bpsjp@biophys.jp
●URL：http://www.biophys.jp/

本学会は、“物理的科学の方法一般と生物的科学との融合による生命現象の基本的理解”を目的として設立された。この目的を達成するために、学術集会（年会）を年１回開催するとともに、学会誌“生物物理”およびOn-line journal “Biophysics and Physicobiology”を発行している。若手研究者の育成のため、若手奨励賞による顕彰、海外派遣の支援等を行っている。また、アジア生物物理学連合に協力し、アジアの生物物理振興にも貢献している。

一般社団法人 日本生理学会

理事長：丸中良典
（2016年７月１日現在）

●1922年設立
●会員数：2,700名（2016年７月現在）
●〒160-0016
東京都新宿区信濃町　煉瓦館５階
（一財）国際医学情報センター内
●Tel：03-5361-7277
●Fax：03-5361-7091
●E-mail：psj@imic.or.jp
●URL：http://physiology.jp/（日本語版）
http://int.physiology.jp/（英語版）

日本生理学会は生命現象の仕組みを分子から個体までのあらゆるレベルで明らかにするための研究を進めている。これらの研究成果は、日本生理学会大会、各地で開催される地方学術集会、J Physiol Sci（英文学術雑誌）、日本生理学雑誌（和文学術雑誌）において発表されている。2019年３月には神戸国際会議場にて、第９回アジア・オセアニア生理学会連合2019年大会を日本生理学会が主催し、アジア・オセアニアから多くの研究者が参加し、生理学の更なる発展に大きく寄与することが期待されている。

一般社団法人 日本蛋白質科学会

会長：後藤　祐児
（2016年７月１日現在）

●2001年設立
●会員数：1,490名
●〒562-8686
大阪府箕面市稲4-1-2
●Tel：072-729-4125
●Fax：072-729-4165
●E-mail：jimu@pssj.jp
●URL：http://www.pssj.jp/

日本蛋白質科学会は2001年に設立され、広く蛋白質に関する科学の研究を推進し、わが国における学術の発展に寄与することを目的としています。年に１回の年会の開催、学術集会・講演会の開催、電子メールによるニュースレターの発行、蛋白質科学会アーカイブによるオンラインの情報発信、アジア環太平洋地域における蛋白質科学の国際連携などの活動を行っています。蛋白質科学の研究や教育に関わる次世代の人材育成にも力を入れています。

公益社団法人 日本動物学会

会長：武田　洋幸
（2016年７月１日現在）

●1878年設立
●会員数：2,336名
●〒113-0033
東京都文京区本郷7-2-2
本郷MTビル４階
●Tel：03-3814-5461
●Fax：03-3814-6216
●E-mail：zsj-society@zoology.or.jp
●URL：http://www.zoology.or.jp/

動物科学研究の発展と普及を目的とし、学術集会を年１回開催、全国７支部における支部会、一般向け講演会開催も活発に行っている。Zoological Science、また2015年よりOA誌Zoological Lettersを刊行している。若手研究者国際会議派遣補助や女性研究者奨励OM賞などによる若手、女性研究者育成も行うなど、動物学会賞をはじめ、多彩な賞を有してもいる。支部大会を含めた、大会における高校生ポスター発表は、すでに20年近い歴史を持っている。なお、2016年11月には、世界動物学会議を沖縄で開催、世界をリードする動物学研究者の基調講演をはじめとして、現段階における動物学研究の在り方を世界に示す会議となる。http://www.zoology.or.jp/2016-jointmeeting/

公益社団法人 日本農芸化学会

会長：植田　和光
（2016年７月１日現在）

●1924年設立
●会員数：10,530名（2016年２月末日現在）
●〒113-0032
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル内
●Tel：03-3811-8789
●Fax：03-3815-1920
●E-mail：shomu@jsbba.or.jp
●URL：http://www.jsbba.or.jp/

“農芸化学”は、生命現象を化学に基づいて解明し、その知見を農業生産、加工品生産など社会に応用還元する日本独自の研究・教育分野です。日本農芸化学会は、この分野の進歩を通じて科学・技術・文化の発展に寄与することで人類の福祉の向上に資することを目的に1924年に設立されました。現在、創立100周年に向けて、「生命」「食」「環境」の3つをキーワードとして、さらなる発展を期して活動を強化しています。

日本発生生物学会

会長：上野　直人
（2016年７月１日現在）

●1968年設立
●会員数：約1,200名（2016年７月現在）
●〒650-0047
神戸市中央区港島南町2-2-3　理化学研究所
多細胞システム形成研究センター内
●Tel：078-306-3072
●Fax：078-306-3072
●E-mail：jsdbadmin@jsdb.jp
●URL：http://www.jsdb.jp/

本学会は発生生物学の進歩と普及に努めることを目的として設立されました。国際誌Development Growth & Differentiationを刊行し、また年1回の大会を開催しています。さらに、国際発生生物学会の構成学会としての活動に加え、年会の英語化、アジア・環太平洋ネットワーク（APDBN）形成、外国の発生生物学会との合同ミーティング開催、および若手研究者の海外派遣支援プログラムなどによって国際化を進めています。

日本比較生理生化学会

会長：尾崎まみこ
（2016年7月１日現在）

●1978年設立
●会員数：513名（2016年４月17日現在）
●〒657-8501
●兵庫県神戸市灘区六甲台町1-1
神戸大学大学院理学研究科生物学専攻
生体分子機構講座　分子生理教育研究分野内
●Tel：078-803-5718
●Fax：078-803-5770
●E-mail：office@jscpb.org
●URL：http://jscpb.org/

本学会は、広範な生命現象の理解を目指し、比較生理生化学とこれに関連する学術研究を振興して参りました。地球上に共存する多様な生物が進化の過程で獲得してきた、環境に巧みに適応するしくみを、「比較」の立場から明らかにすることを目的としています。年１回の全国大会、合同シンポジウムなどを開催し、年４回、学術雑誌「比較生理生化学」を刊行しています。高い研究水準を保ちつつもまた、広く社会に貢献できる学会を念頭に、出版事業、教育活動を積極的に推進し、学会ホームページ上では、今日的なトピックスを平易に解説した「動物の生きるしくみ事典」や本学会員が用いている研究材料の紹介なども行い、この分野の魅力を知ってもらう取り組みを重ねています。

日本比較内分泌学会

会長：竹井　祥郎
（2016年７月１日現在）

●1975年設立
●会員数：約450名
●〒277-8564
千葉県柏市柏の葉5-1-5
東京大学大気海洋研究所生理学分野内
日本比較内分泌学会事務局
●Tel：04-7136-6202
●Fax：04-7136-6206
●E-mail：hyodo@aori.u-tokyo.ac.jp
●URL：http://www.jsce1975.jp/

本学会は、理学、農学、医学、薬学、化学など多様な分野の研究者が集い、わが国における基礎的な内分泌学の発展を担っている。これまで２回の国際学会及びアジア・オセアニア学会を主催するとともに、毎年学術集会およびシンポジウムを開催し、学会誌「比較内分泌学」を年３回発行している。また、教育と社会貢献の一環として出版活動を行っており、ホルモンの生物科学シリーズ、内分泌器官のアトラス、ホルモンハンドブック、Handbook of Hormones（英語版）、ホルモンから見た生命現象と進化シリーズ等、多数を出版している。

日本微生物生態学会

会長：南澤　究
（2016年７月１日現在）

●1985年設立
●会員数：約1,000名
●〒300-0393
茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
茨城大学　農学部内
日本微生物生態学会事務局
●Tel/Fax：029-888-8672
●URL：http://www.microbial-ecology.jp/

微生物生態学は環境微生物学のほか、微生物生理学、微生物系統進化学、微生物ゲノム科学、公衆衛生学、食品微生物学、環境バイオテクノロジーなどを網羅し、地球システム全体をその研究対象とする総合的学問である。微生物生態学会はそれらを包括する学会として設立された。学術集会を年１回開催するほか、日本土壌微生物学会、台湾微生物生態学会ならびに植物微生物研究会との共同編集により学術誌Microbes and Environments（IF=2.231）を年4回刊行する。

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

理事長：荒木　弘之
（2016年７月１日現在）

●1978年設立
●会員数：13,113名（2016年５月現在）
●〒102-0072
東京都千代田区飯田橋２-11-5
人材開発ビル４階
●Tel：03-3556-9600
●Fax：03-3556-9611
●E-mail：info@mbsj.jp
●URL：http://www.mbsj.jp/

分子生物学は、生命現象を分子レベルで解明することを目指して今日まで発展してきました。本学会は学問の新しい流れに大胆且つ柔軟に取り組み、形式より実質を重んずる気風を特徴に活動しています。分子生物学に関する研究・教育の推進、現代生物学の発展に寄与することを目的として、学術年会を年１回開催し、学会誌Genes to Cellsを年12回刊行しています。高校への出前授業の仲介や高校生による年会での発表会等を通じて、次世代教育にも積極的に取り組んでいます。

日本分類学会連合

代表：大塚　攻
（2016年７月１日現在）

●2002年設立
●会員数：加盟学会25学会
（2016年７月現在）
●〒739-8524
広島県東広島市鏡山1-1-1
広島大学大学院教育学研究科内
●Tel：082-424-7093
●Fax：082-424-7123
●E-mail：tomikawa@hiroshima-u.ac.jp
●URL：http://www.ujssb.org/

本連合は日本の生物分類学に関わる25学会の連合組織であり、分類学に関わる研究教育の発展・普及を目指して設立されました。主な活動としては、ニュースレターを年２回発行し、毎年１月初旬に分類学に関連するシンポジウムを国立科学博物館で開催しています。最近の話題としては「東南アジアにおける生物多様性研究最前線」、「国立自然史博物館の設立を望む」、「分類学と応用科学の接点」などがあります。

特定非営利活動法人 日本免疫学会

理事長：審良　静男
（2016年７月１日現在）

●1970年設立
●会員数：4,460名（2016年７月28日現在）
●〒101-0061
東京都千代田区三崎町3-6-2
原島三崎町ビル2F
●Tel：03-3511-9795
●Fax：03-3511-9788
●E-mail：men-eki@s3.dion.ne.jp
●URL：http://www.jsi-men-eki.org/

日本免疫学会は、生体防御と生命恒常性を司る免疫〈学〉の研究を発展させ、より広く世界に広めることを目指しています。年１回の学術集会の開催、日本免疫学会賞などの顕彰、学術誌 International Immunology やニュースレターの刊行、によって会員の交流促進と若手研究者の育成に積極的に取り組んでいます。さらに、サマースクールや「免疫ふしぎ未来」などの活動を通して、一般社会に対しても免疫〈学〉の重要性をアピールし、研究への理解を深めていただく努力をしています。

公益社団法人 日本薬理学会

理事長：赤池　昭紀
（2016年７月１日現在）

●1927年設立
●会員数：4,630名（2015年12月末日現在）
●〒113-0032
東京都文京区弥生2-4-16
学会センタービル
●Tel：03-3814-4828
●Fax：03-3814-4809
●URL：http://www.pharmacol.or.jp/

平成24年１月に公益社団法人に移行し、事業活動や学会運営に一層の公益性が求められていることを踏まえて、次の活動を行っている。薬理学に関する学理及び応用の研究についての知識の普及、会員相互及び内外の関連学会との連携協力により、薬理学の進歩を図るため、年会、地方部会（年６回）、共催シンポジウム、セミナー、及び市民公開講座を開催し、学術誌Journal of Pharmacological Sciences及び日本薬理学雑誌を毎月発行している。また江橋節郎賞、及び若手を対象とする奨励賞等の顕彰を行っている。